

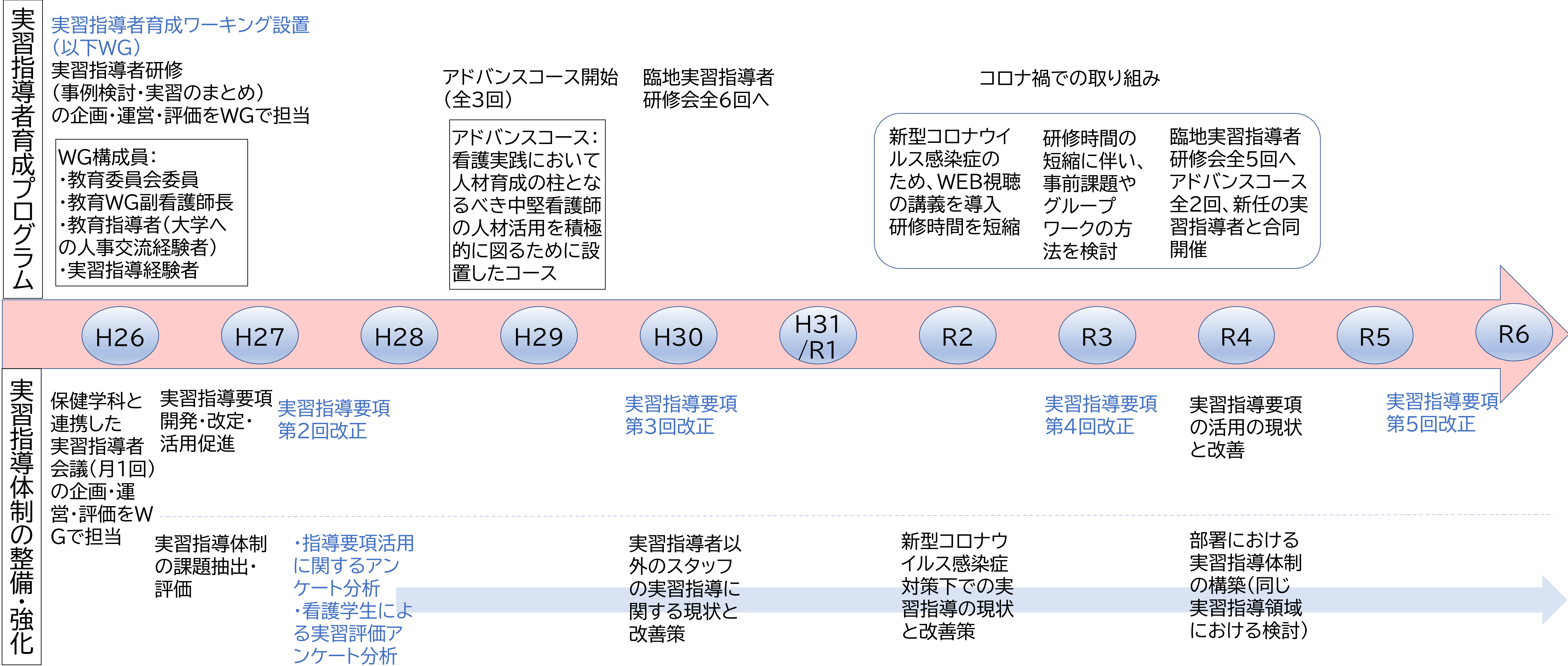
質の高い臨地実習を目指した実習指導者育成への取り組み

実習指導者育成WG

I. 主な活動内容

1. 実習指導者研修の企画・運営・評価
2. 実習指導者会議の企画・運営・評価
3. 看護学生の実習に関するアンケートの実施・評価
4. 実習指導要項の作成・見直し

10年のあゆみ

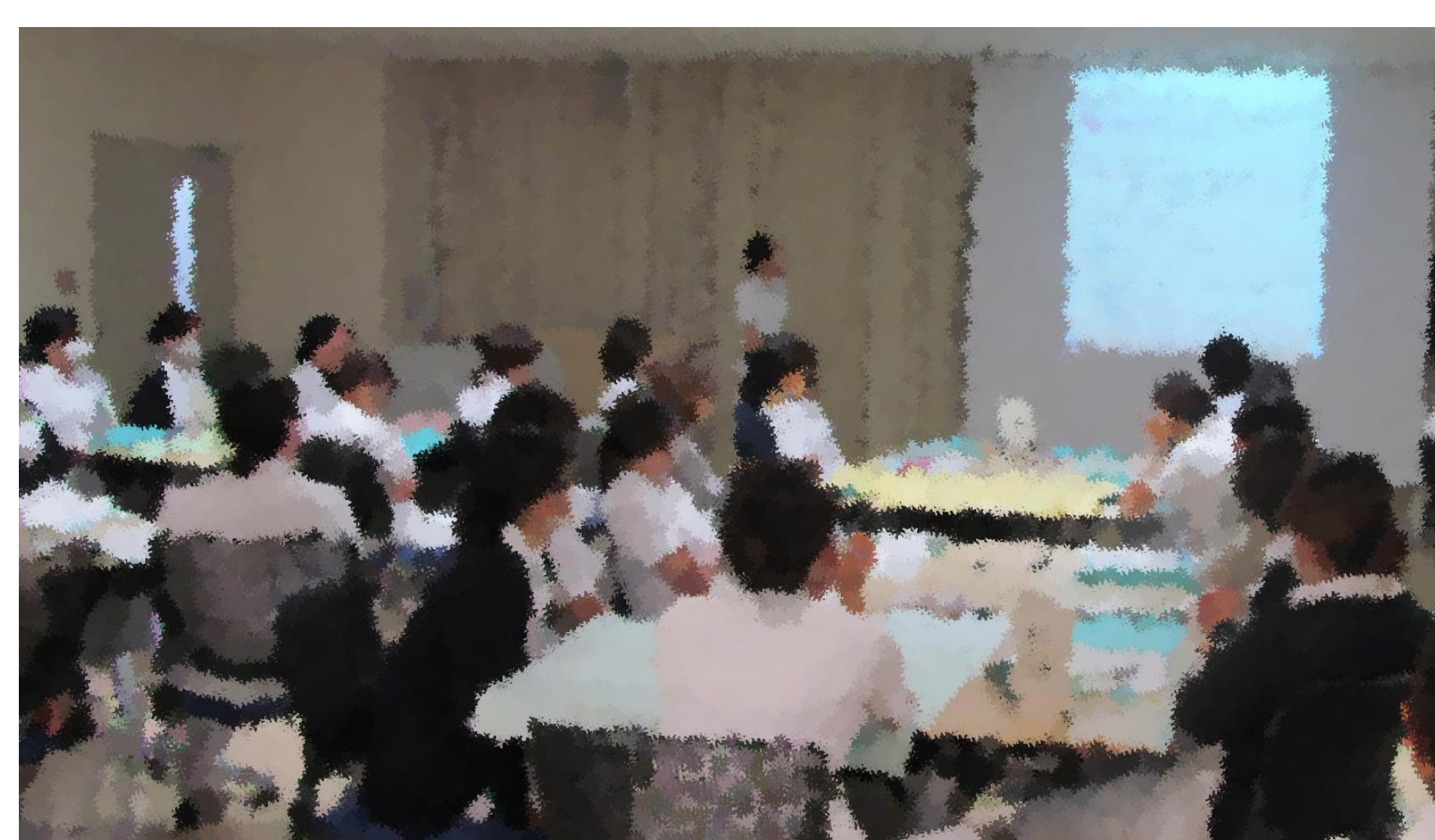


II. 教育プログラムの実際

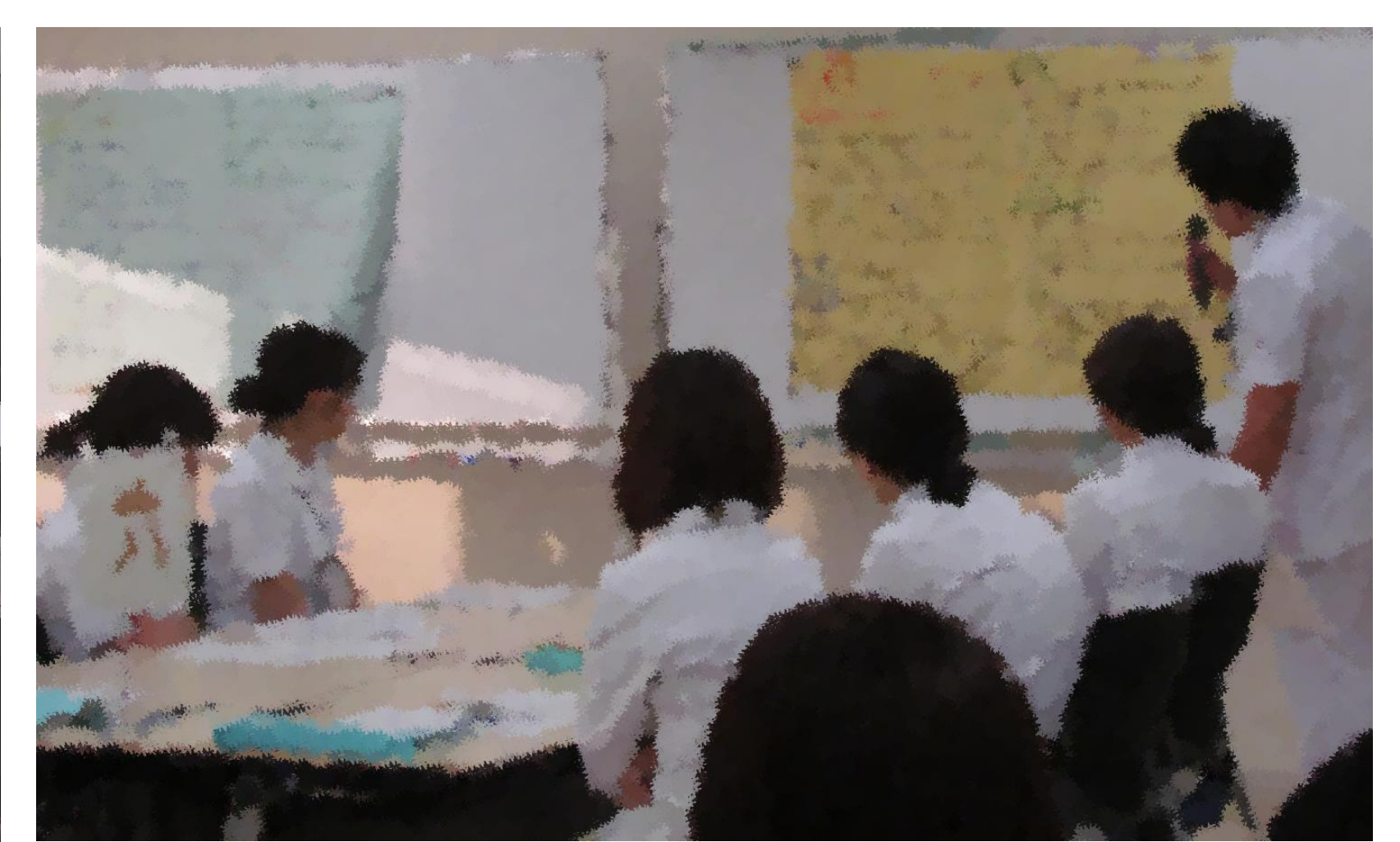
1. 実習指導者研修

- 1) 目的
 - ①看護教育における実習意義および実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する
 - ②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す
- 2) 対象者
新たに臨地実習指導者となる看護職員
- 3) 九州大学医学研究院保健学部門の教員と協同で開催
- 4) アドバンスコース
基礎看護学実習に特化した臨地実習指導者の育成を行っている
- 5) 内容
 - ・看護基礎教育課程、実習指導の原理
 - ・看護学生の動向、看護過程
 - ・カンファレンスの指導方法
 - ・実習指導の実際
 - ・事例検討

臨地実習のスケジュールと研修時期がリンクするように企画を工夫することで、各研修で学んだことを実際の指導現場でタイムリーに実践できるようにしている。



実習指導者研修 グループワーク・事例検討の発表の様子



コロナ禍は、外部講師に遠隔講義をしていただいた



実習指導者研修 講義



平成29年度 実習指導者研修 アドバンスコース開始

2. 実習指導者会議

- 1) 目的
実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る
- 2) 内容
 - ・各大学との実習指導者連絡会
 - ・実習指導に関する情報共有、ディスカッション
 - ・学生の状況や学習について情報共有

看護師だけでなく保健学科の教員や実習を行う各大学の教員も同席し、互いの情報交換を通して指導体制や指導内容の充実を図っている。



実習指導者会議 保健学科教員より情報提供



実習指導に関する情報共有やディスカッション

実習指導者会議 グループワークの様子

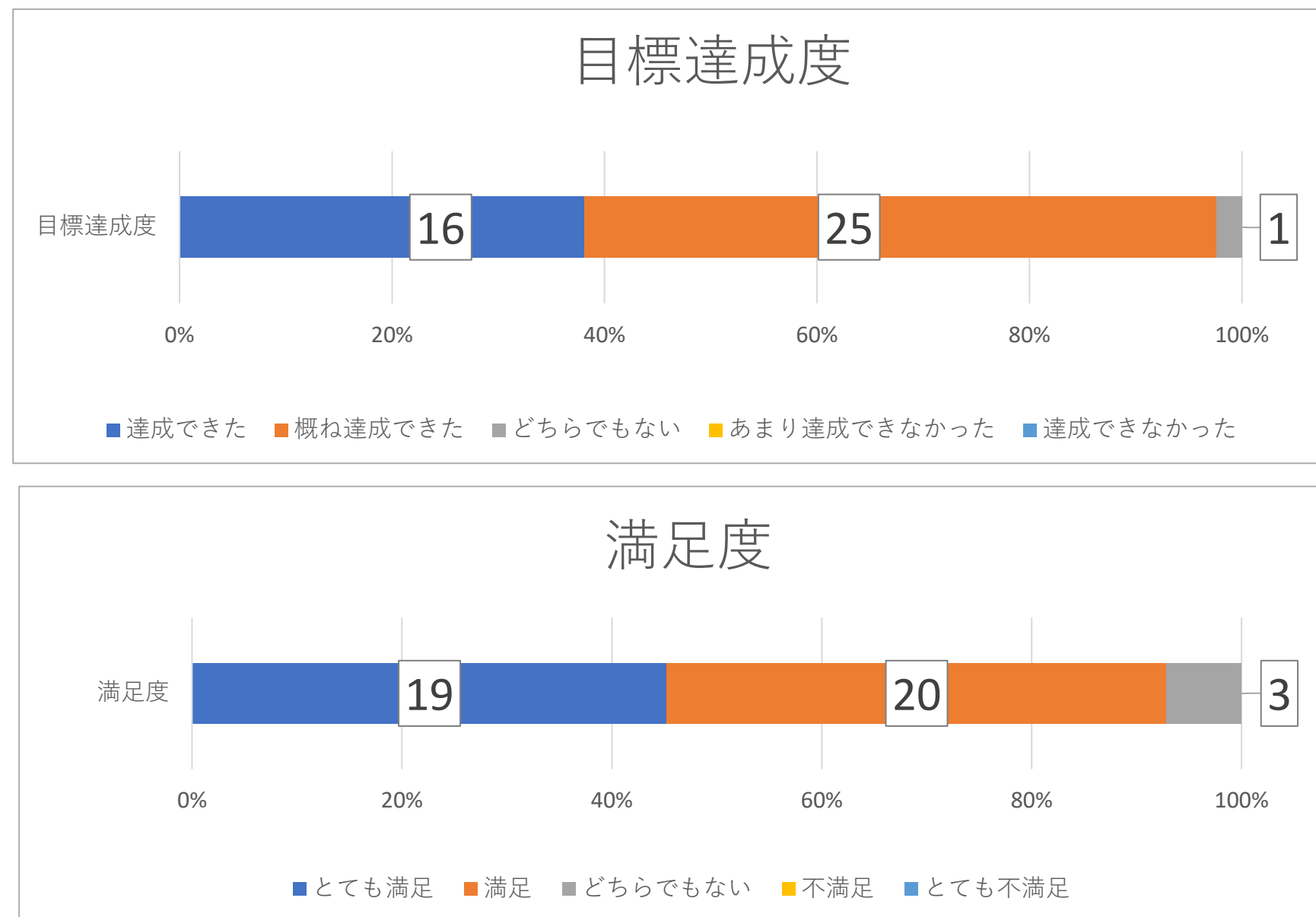
Ⅲ. 成果

1. 新規実習指導者・アドバンスコース育成人数

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	計
新規実習指導者育成人数 (名)	41	46	46	53	45	54	48	52	45	48	478
アドバンスコース育成人数 (名)				45	39	32	29	29	21	21	216

2. 実習指導者研修会(新規実習指導者・アドバンスコース)のアンケート結果(令和6年度)

1) 実習指導者研修(全5回)を通しての研修目標達成度・研修満足度



2) 実習指導者研修の学びについて 受講者の声(一部抜粋)

新規臨地実習指導者

看護教育における実習の位置づけについて学ぶことができ、学生への理解が深まった。学生との関わりのヒントをいただけた。こういう世代だからとくっついてしまわないように気を付けたい。意見交換をしながら事例検討を行うことができ、実際の場面と照らし合わせながら、考えることができた。すぐに実践できる内容が多かったので、今後の学生指導に活かしていきたい。学生のモデルになれるよう自己研鑽が必要だと感じた。

アドバンスコース

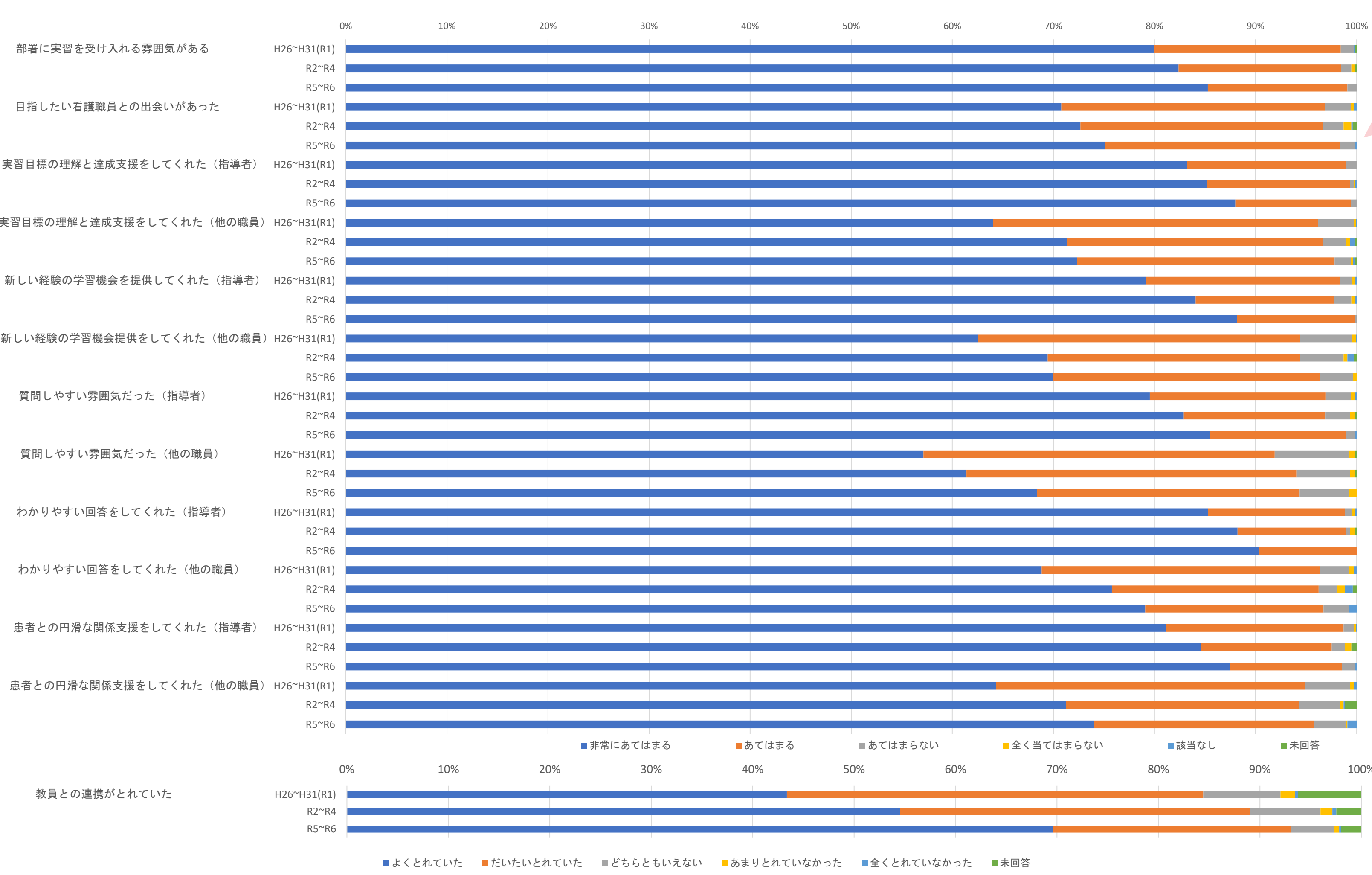
自分自身が学生の時との教育課程との違いを改めて感じた。学生の個々の反応を注意深く観察し、個人のレベルに応じた関わりや問題提起ができるよう工夫しようと思う。実りのある実習を経験してもらえよう、声掛けの工夫や周りとの調整を行い、看護師のロールモデルとして行動できるよう自分の行動も見直していきたい。

【新規実習指導者】
継続的に新規実習指導者を育成できており、実習指導体制の基盤作りが着実に進んでいると考えられる。

【アドバンスコース】
初期には多くのリーダークラスが受講し、その後も安定した人数で育成が継続している。学生指導を通して、自らの看護観や教育への姿勢を見直す機会となっており、リーダーとして部署内での教育風土の醸成に貢献している。

3. 看護学生の実習に関するアンケート結果

A大学 学生アンケート結果

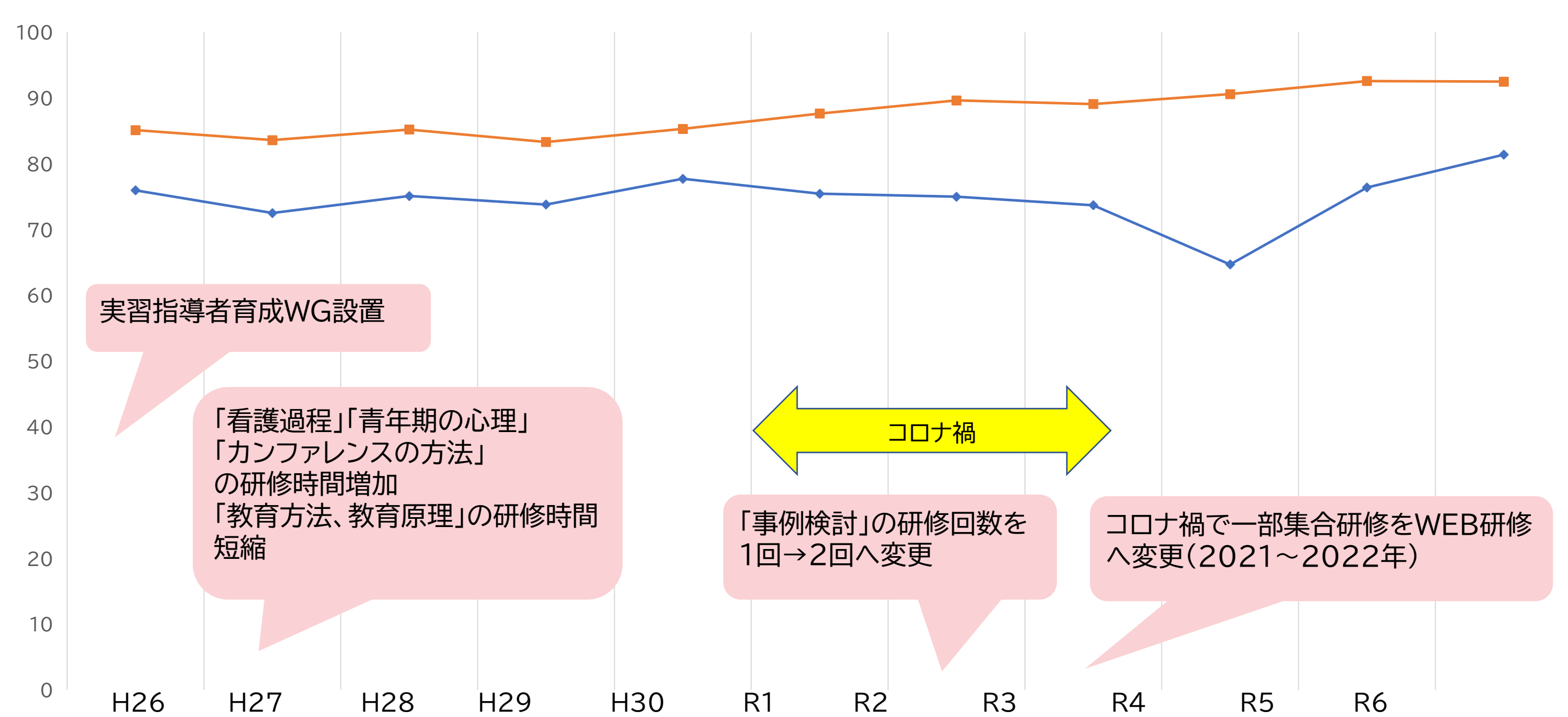


H26年からR6年までの10年間のアンケート結果を
コロナ前: H26年~H31(R1)年
コロナ禍: R2年~R4年
コロナ後: R5年~R6年
で各期ごとに回答の割合を示している。

平成26年度から令和6年度までの10年間にわたる看護学生の実習に関するアンケートでは、多くの項目で「非常にあてはまる」「あてはまる」の回答が多く、実習指導者の支援や質問しやすい雰囲気など、良好な実習環境が維持できていると考える。コロナ禍には、特に『新しい学習機会の提供』『患者との円滑な関係の支援』といった項目では、実習制限などの影響から低下傾向がみられたものの、全体として著しい低下は認められず、困難な状況においても教育的支援や実習環境の質は維持されていたと考える。コロナ後には改善が見られており、実習の受け入れ体制の再構築や実習指導者の教育的関わりへの回復が進んだことによるものと考えられる。『教員との連携』は年度によって差がみられ、今後の課題として挙げられる。今後も実習体制を定期的に振り返り、学生が安心して学べる環境づくりを継続していく。

4. 実習指導者研修前後のアンケート結果

教師効力尺度による研修前後比較



実習指導者育成WG設置

「看護過程」「青年期の心理」「カンファレンスの方法」の研修時間増加
「教育方法、教育原理」の研修時間短縮

コロナ禍

「事例検討」の研修回数を1回→2回へ変更

コロナ禍で一部集合研修をWEB研修へ変更(2021~2022年)

新規実習指導者に対して、臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響をおよぼすことができるかという信念に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度(坪井ら、2001)」を用いて実習指導者研修前後に比較を行った。コロナ禍では研修前の教師効力尺度の低下を認めたが、研修後は10年間を通して上昇している。この結果より、実習指導者研修による学びの効果があったと確認できる。

5. 令和5年度の看護キャリアセンターセミナーで地域講演実施

参加人数: 109名(院内: 45名、他施設: 57名、教育機関: 7名)
内容: 看護基礎教育から継続教育へ向けて - 効果的な臨地実習指導への取り組み -

参加者の感想

- ・実習は学校と病院双方の頑張りで成り立つと改めて思いました。
- ・学生の実習や新人教育についてもこのセミナーで得られたことを現場に繋げたい。
- ・学生の傾向について、事前に把握しておくこと、実習指導の際に役立つと感じました。
- ・教員との積極的なコミュニケーションを図ることが重要であると再認識しました。



臨地実習指導者による実践報告「効果的な実習指導の実践について」

Ⅳ. 今後の展望

これまで、「臨地実習現場での実習指導の質を向上させる」ことを目標に、「看護キャリアセンター」「保健学科との人事交流」「教育WG」「実習指導者」等の様々な教育経験を持つスタッフで活動を行ってきた。令和2年以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、感染拡大予防の観点から、学生の授業は対面からオンラインが中心となり、AIやSNSの発展により、対面でのコミュニケーションの機会が減少した。その結果、看護学生が臨地実習において患者や教員、実習指導者とのコミュニケーションに困難を感じる様子がみられるようになった。また、そのような看護学生に対してどのように関わり、指導を行っていけば良いのか実習指導者自身も難しさを感じている現状がある。

学生の傾向や特徴を理解し、個々に応じた指導を行うためには、実習指導者の役割が増々重要となっている。今後も効果的かつ効率的な実習指導を行える指導者を育成することを目的に、コミュニケーション支援をはじめ、実際の指導場面で生じる困難な事例を共有・検討できる研修内容を整えていく必要がある。さらに、部署全体で学生実習を受け入れる体制を整えることを目指し、実習指導者育成WGとして継続的に活動をしていきたい。